

聖徳太子

574年2月7日 -622年4月8日

飛鳥時代の**皇族、政治家**。厩戸皇子（うまやどのみこ）または厩戸王（うまやどのおう）の後世の呼称。用明天皇の第二皇子、母は欽明天皇の皇女・穴穂部間人皇女（生母）（あなほべのはしひとのひめみこ）

お寺に何故聖徳太子堂があるのでしょか？

聖徳太子は斑鳩宮を造営し、**政治の基調に仏教を採用し、文化の向上と仏教の興隆を目指した**。聖徳太子が推古天皇の摂政として、この斑鳩の地に斑鳩宮を建て飛鳥の宮殿との間を、今流に言う通勤しながら**仏教の布教と国家統一の為のさまざまな政治改革**をしたようです。

摂政（せつしょう）とは=天皇が幼少であるか、女帝である場合、天皇に代わって政務を行なう職

太子建立七大寺（聖徳太子が建立した七つのお寺）

四天王寺・法隆寺・中宮寺（中宮尼寺）・橘寺・蜂岡寺（広隆寺）・池後寺（法起寺）・葛木寺（葛城尼寺）は、聖徳太子が創建した七大寺と称されています。

四天王寺 大阪市天王寺区。

『日本書紀』によれば、蘇我氏と物部氏の戦いにおいて、蘇我氏側である聖徳太子は戦いに勝利すれば、四天王を安置する寺院を建てると誓願を立てた。見事勝利したので、摂津国難波に四天王寺を建てた。『書記』によれば 593年（推古天皇元年）のことという。四天王寺には、敬田院、施薬院、療病院、悲田院の4つの四箇院を設置したという。

なお、聖徳太子の佩刀とされる七星剣と丙子椒林剣が現在、四天王寺に保管されている。本尊は救世観音で、四天王寺では聖徳太子の念持仏の如意輪観音とも同一視される。

法隆寺（斑鳩寺） 奈良県生駒郡斑鳩町。

金堂薬師如来像光背銘によれば、法隆寺は用明天皇が自らの病氣平癒のため建立を発願したが、志を遂げずに崩御したため、遺志を継いだ推古天皇と聖徳太子が推古天皇15年（607年）に寺と薬師像を造ったという。『日本書紀』には天智天皇9年（670年）に法隆寺が全焼したとの記事がある。この記事をめぐる、現存する法隆寺（西院伽藍）は聖徳太子の時代のものか、天智天皇9年（670年）以降の再建かについて長い論争があったが（法隆寺再建・非再建論争）、若草伽藍の発掘調査により、聖徳太子時代の伽藍は一度焼失し、現存の西院伽藍は7世紀末頃の再建であることが定説となっている。「夢殿」を中心とする東院伽藍は太子の営んだ斑鳩宮の旧地に建てられている。

『日本書紀』によると、670（天智9）年に法隆寺は一屋も余すことなく焼失したといわれています。金堂と五重塔を擁する現在の西院伽藍は、天武・持統朝に着工され和銅年間（708～714）には完成されていたといわれています。

聖徳太子は政治家であり僧侶ではないが、仏教の布教に努め多くの寺院を建立した。

夢殿は聖徳太子が遷化した後、739年（天平11）に行信僧都（ぎょうしんそうず）が聖徳太子の冥福を祈るために建立した八角円堂で、現存する八角円堂のうち最古のものとされている。

「夢殿」の名は、この付近に聖徳太子が瞑想にふけた居室があったことに因んだ名前だという。

日本書紀には「有寺46所」とあり、鎌倉時代以降46所院についての考察が重ねられてきた。しかし、近世に至り、聖徳太子建立とする寺院は数を増し、300余りを数えると言われている。研究者によると、寺院の数はどんどん増えて聖徳太子建立寺院の数を正確につかむことは非常に難しいようである。

現在では全国に七万七千余のお寺があります。